

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	A-4-1																				
事業名	埋蔵文化財発掘調査事業（大崎市古川地域）																				
事業費	総額 1,197 千円（内訳：共済費 298 円・賃金 99,680 円・需用費 360,818 円・使用料及び賃借料 736,204 円）																				
事業期間	平成 24 年度～平成 27 年度																				
事業目的・事業地区	（必要に応じ、別紙として地図を添付（各調査実施箇所等については、別紙震災復興埋蔵文化財発掘調査報告書参照） これらの調査については、被災者住宅等の再建や災害に強い住宅等建築、商工業の再建支援に伴う工場、店舗、事務所等の建築で、埋蔵文化財の発掘調査が必要な場合、その発掘調査費を大崎市が負担し、復興を後押しすることを目的とした。 対象区域について当初は、大崎市の中で最も建物等の被害が甚大であった古川地域としていたが、平成 25 年 11 月より市内全域に拡大した。																				
事業結果	東日本大震災で被災した個人住宅建築、中小企業の店舗、事務所、工事建設等に伴う記録保存のための発掘調査と、大崎市が計画する復興事業に係る分布調査、試掘・確認調査等の遺跡発掘の発掘調査を行ったもの。（各調査実施結果等については、別紙震災復興埋蔵文化財発掘調査報告書参照） <table border="0"> <tr> <td><平成 24 年度></td> <td>・文化財保護法第 93 条第 1 項届出</td> <td>14 件</td> <td>発掘調査件数</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td><平成 25 年度></td> <td>・文化財保護法第 93 条第 1 項届出</td> <td>4 件</td> <td>発掘調査件数</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td><平成 26 年度></td> <td>・文化財保護法第 93 条第 1 項届出</td> <td>3 件</td> <td>発掘調査件数</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td><平成 27 年度></td> <td>・文化財保護法第 93 条第 1 項届出</td> <td>0 件</td> <td>発掘調査件数</td> <td>0 件</td> </tr> </table> <p>・埋蔵文化財の整理・報告書作成 埋蔵文化財の記録の作成。</p>	<平成 24 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	14 件	発掘調査件数	5 件	<平成 25 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	4 件	発掘調査件数	2 件	<平成 26 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	3 件	発掘調査件数	2 件	<平成 27 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	0 件	発掘調査件数	0 件
<平成 24 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	14 件	発掘調査件数	5 件																	
<平成 25 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	4 件	発掘調査件数	2 件																	
<平成 26 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	3 件	発掘調査件数	2 件																	
<平成 27 年度>	・文化財保護法第 93 条第 1 項届出	0 件	発掘調査件数	0 件																	
事業の実績に関する評価	<p>① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>震災後の建物建築における基礎構造は、地震等の被害軽減のため土壌改良や柱状改良等を採用するものが多く、埋蔵文化財に関係する場合は地下遺構に影響を及ぼすことが予想されたため、地下遺構の確認や記録保存のための発掘調査をすべての工事に先がけて実施する必要があったが、いち早く発掘調査費を行政が負担する支援を行うことで、文化財の所有者、事業者負担を軽減することができた。</p>																				

発掘調査完了後は、個人住宅となり、被害の大きかった古川地域の住宅等の再建についての経済的支援を行えた。

当初事業計画で予測していた発掘調査件数に対し、実施件数が大幅に減ったため事業費が減額となったもの。

② コストに関する調査・分析・評価

発掘調査に用いる重機及び機材の積算については、登録業者から見積を参考に設計を行い、市契約規則に基づき、適切に入札等を実施して業者を選定し、事業を実施した。従前に行っている事業費と比較しても妥当な事業費であると判断される。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

発掘調査に支障が無いよう、適切に指導、助言を行いながら、調査を実施していたため、円滑に事業を進めることができた。

発掘調査は当初の事業期間内に終了したが、精算事務に時間を要したため、実際の事業期間が延びてしまった。

<当初の事業期間> 平成24年4月～平成27年3月

<実際の事業期間> 平成24年4月～平成29年12月

事業担当部局

大崎市教育部文化財課 電話番号：0229-72-5036

震災復興埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

大崎市教育委員会

序 文

平成23年3月11日に太平洋三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は日本の観測史上最大を記録し、宮城県大崎市では震度6強を記録する激しい揺れに見舞われました。この東日本大震災は東北から関東の東日本一帯に被害が及び、大崎市も甚大な被害を受けました。さらに、4月7日に発生した宮城県沖を震源とした震度6弱の余震で、その被害が拡大しました。

本市では市民の尊い命が失われ、重軽傷者も多数ありました。建物や公共施設にも大きな被害を受け、電気・水道・通信などのライフラインも停止し、多くの市民が避難所生活を余儀なくされた未曾有の大災害となりました。

文化財関係では、国指定の史跡及び名勝旧有備館および庭園をはじめ、国指定等の重要遺跡や県指定・市指定にも多くの被害が及んでおります。これら貴重な国民的財産である文化財を着実に後世へ継承するため、保存・修復等の措置を講じて参りました。また、震災復興に伴う開発行為によりやむなく遺跡の一部が破壊される場合には、発掘調査を実施して記録の作成または保存に努めました。

本書は、震災で被災した住宅等の新築や改築に伴う埋蔵文化財の記録を得るために実施した発掘調査の報告であります。

最後になりましたが、市民の皆様をはじめ、関係機関の方々にはご理解とご協力を賜りましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

大崎市教育委員会

教育長 青 沼 拓 夫

例 言

1. 本書は、東日本大震災に係る平成24年度から平成27年度までの震災復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 本書で用いた方向は磁北である。
3. 本書の土色については、「新版標準土色帳」（農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所2005年版）を使用した。
4. 本書の遺跡位置図は大崎市管内図5万分の1を、調査区位置図は大崎市都市計画図2千5百分の1もしくは1万分の1を複製加筆して使用した。
5. 遺構の縮尺は60分の1、遺物実測の縮尺は3分の1で統一した。
6. 本書で使用した遺構・遺物の分類番号は、下記のとおりである。なお、遺物観察表で（ ）を付して記載したものは復元実測による値である。
(遺構) S D 溝跡 S I 竪穴住居跡 S K 土坑
(遺物) D ロクロ調整土師器 K 石器・石製品
7. 発掘作業等の体制は以下のとおりである。
事業名：震災復興埋蔵文化財発掘調査
調査主体：大崎市教育委員会
期 間：平成24年4月1日～平成28年3月31日
調査員：平成24年度 大谷 基
平成25年度 佐藤 優，小野亜矢
平成26・27年度 小野亜矢，大久保弥生
作業員：伊藤恵子，笠原久子，佐々木由香理，新行内ゆり子，高橋和恵，村松孝政
8. 本書の作成及び遺物の整理作業は大崎市教育委員会教育部文化財課が行い、作業にあたり次のとおり分担した。
本文執筆：第1章～第3章 佐藤，第4章 小野
遺物実測：大久保
遺構・遺物トレース：伊藤恵子，伊藤小百合
遺物補強・復元：笠原久子
9. 本書の編集は小野が行った。
10. 本書に関する諸記録並び出土遺物などは、大崎市教育委員会が保管している。

目 次

序文

例言

第1章 調査経過	1
1. 調査に至る経緯	1
第2章 位置と環境	1
1. 歴史・地理的環境	1
第3章 調査の方法	1
1. 調査方法と整理作業	1
第4章 調査成果	2
1. 矢根八幡遺跡	3
2. 宮沢城跡	4
3. 古川城跡	5
4. 青塚城跡	6
5. 宮沢遺跡	7
6. 宮沢遺跡	8
7. 宮沢遺跡	9
8. 新田柵跡	13
9. 北長根南遺跡	14

報告書抄録

第1章 調査経過

1. 調査に至る経緯

本書で報告する埋蔵文化財発掘調査は、東日本大震災で被災した市民の住宅、零細・中小企業の店舗・事務所・工場等の再建・復旧に伴い埋蔵文化財の発掘調査が必要になった箇所において、地下遺構の確認や記録保存のために行った発掘調査である。対象地域は、大崎市内でも最も建物等被害の大きかった古川地域としていたが、平成25年からは市内全域を対象を拡大して復興を後押ししている。

事業対象件数

事業年度	93条届出件数	発掘調査件数
平成24年度	14件	5件
平成25年度	4件	2件
平成26年度	3件	2件
平成27年度	0件	0件

*届出に罹災証明書が添付された件数とそのうち発掘調査を行った件数

第2章 位置と環境

1. 歴史・地理的環境

大崎市は宮城県の北西部に位置する。東西約80kmに及び、総面積は約796km²と広大である。市西部には奥羽山脈が南北に連なり、そこから派生する丘陵地帯が大きく東へ突出している。荒雄岳を源とする江合川と、船形連峰を源とする鳴瀬川の二つの河川が西から東へ貫流しており、これによって形成された肥沃な大崎耕土が広がる県内有数の穀倉地帯となっている。

縄文時代には、中沢目貝塚や東要害貝塚、北小松遺跡といった大規模な遺跡が湖沼を望む低丘陵上に存在する。弥生時代は権現山遺跡や宮沢遺跡で石包丁が出土しており、稲作が行われたことを証明する遺物となっている。古墳時代は前方後円墳である青塚古墳があり、さらに丘陵斜面には山畑横穴墓群、金谷亀井囲横穴墓群、川北横穴墓群など多くの横穴墓が築造される。古代は名生館官衙遺跡をはじめとする多くの城柵官衙遺跡や役所の建物に葺く瓦を焼いた窯跡も点在する。中世は室町期に奥州探題職の大崎氏が小野館を拠点とし、東北地方の統治を行った。近世は伊達氏が岩出山城に入り、仙台に移るまでの間、伊達領の政治や軍事の中心地となった。

第3章 調査の方法

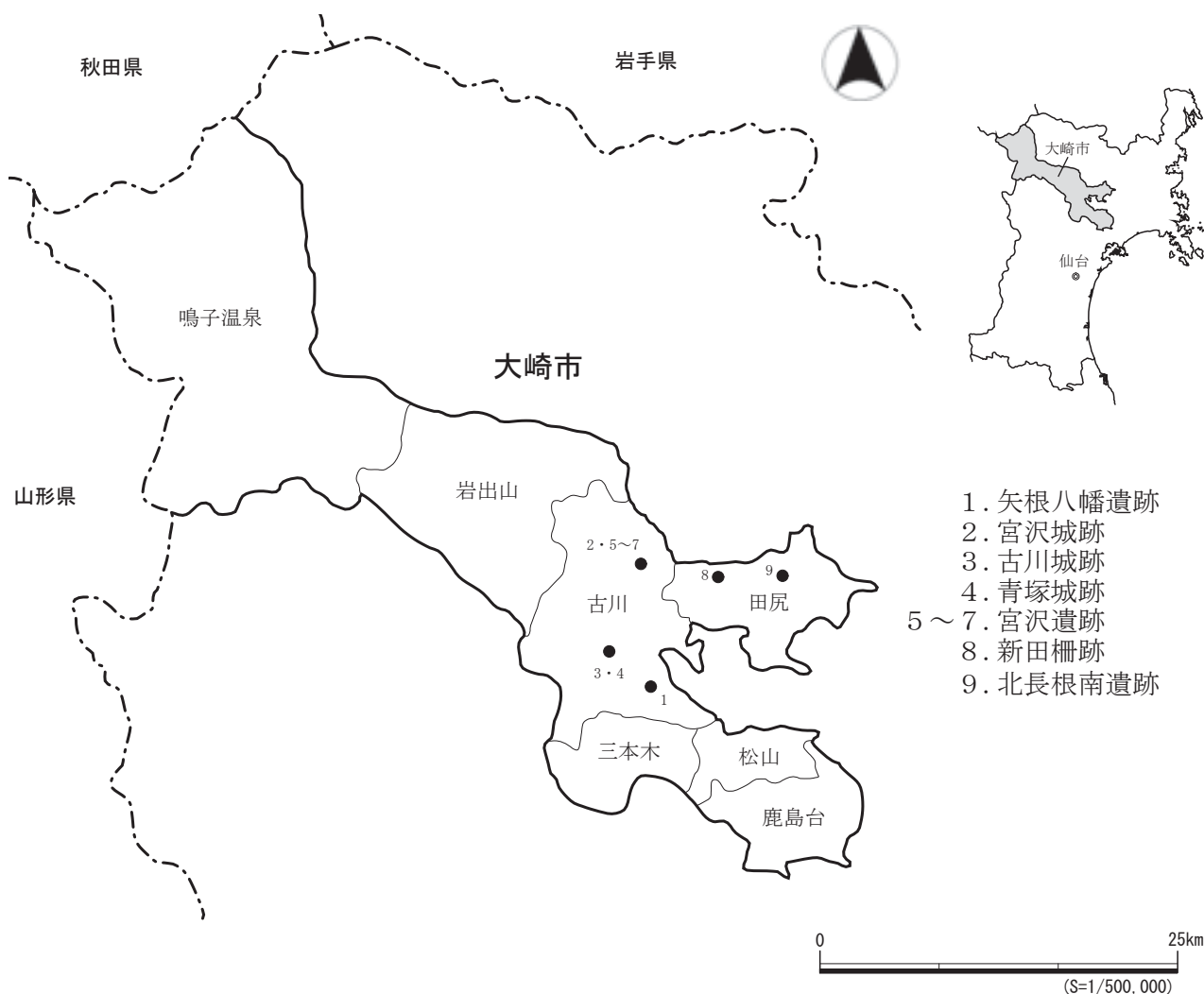
1. 調査方法と整理作業

表土及び盛土層などは重機を用いて除去し、以下確認面まで人力掘削を行った。記録方法は磁北方

向を発掘調査基準線とし、遺構平面図をトータルステーション、電子平板、遺構観測ソフト「遺構くん」を使用して作成し、断面図等は必要に応じて手実測により作成した。写真撮影は適宜行っている。出土した遺物の取り上げは、遺構毎に仮番号を1から順に付番し、遺物カードに出土年月日、層位、内容等の情報を記述した。

調査で作成した平面図、土層断面図等の記録を整理し、遺構は調査時に付した仮番号を整理して遺構台帳に登録を行った。遺物は水洗いをし、乾燥させた後、ネーミング作業、接合作業、補強・復元作業を行った。調査や整理で作成した図面等はファイルに一括保管している。遺物はコンテナ台帳登録後、コンテナに番号を付して積層棚に収納した。

第4章 調査成果



1. 矢根八幡遺跡
2. 宮沢城跡
3. 古川城跡
4. 青塚城跡
- 5～7. 宮沢遺跡
8. 新田柵跡
9. 北長根南遺跡

調査遺跡の位置

1. 矢根八幡遺跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川師山字柳町53-2, 53-3, 54-3

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：大谷 基

期間：平成24年4月12日

調査面積：20㎡

住宅建築予定地内にトレンチを2箇所設定し、1Tは1.3m掘下げ旧表土面を検出した。2Tは1.3m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



1 T全景 (西から)



2 T全景 (東から)

2. 宮沢城跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川宮沢字館ノ内104

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：大谷 基

期間：平成24年 6月15日

調査面積：24㎡

住宅建築予定地内にトレンチを2箇所設定し、1 T・2 Tともに、1.7m掘下げ灰白色火山灰層を検出し、1.8m掘下げ旧表土面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



1 T 全景 (東から)



2 T 全景 (南から)

3. 古川城跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川二ノ構36番の一部

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：大谷 基

期 間：平成24年8月3日

調査面積：18㎡

住宅建築予定地内にトレンチを2箇所設定し、両トレンチとも1.2m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



1 T 全景 (西から)



2 T 全景 (東から)

4. 青塚城跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川諏訪二丁目225番1

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：大谷 基

期間：平成24年9月4日

調査面積：40㎡

住宅建築予定地内にトレンチを設定し、1.1m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



調査区全景（西から）

5. 宮沢遺跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川川熊長清42

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：大谷 基

期間：平成25年1月8日

調査面積：25㎡

住宅建築予定地内にトレンチを3箇所設定し、1 Tは2 m掘下げたが地山面に到達しなかった。2 T・3 Tは1 m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



1 T全景 (西から)



2 T全景 (東から)



3 T全景 (東から)

6. 宮沢遺跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川長岡字山下6-11

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：佐藤 優, 小野亜矢

期間：平成25年8月27日

調査面積：12.3㎡

住宅建築予定地内にトレンチを設定し、2.1m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



調査区全景（西から）



基本層序（東から）

7. 宮沢遺跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市古川川熊字長清30

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：小野重矢

期間：平成25年10月3日～4日

調査面積：52.11㎡

竪穴住居跡3軒，溝跡1条，土坑8基を検出した。遺構はすべて表土や盛土の直下の地山面で検出している。

S I 1 竪穴住居

北辺と西辺の一部を検出した。平面形は方形を呈すると考えられ，規模は東西3m以上，南北1.6m以上，方向はほぼ磁北，周溝を確認し，カマドや支柱穴は確認できなかった。遺物は，堆積土より非ロクロ調整土師器甕，ロクロ調整土師器甕，須恵器坏，砥石が出土した。

S I 2 竪穴住居

西辺の一部を検出した。平面形は方形を呈すると考えられ，規模は東西1m以上，南北1.9m以上，方向はN-15°-W，確認面で住居掘方埋土と周溝を確認し，カマドや支柱穴は確認できなかった。重複関係は，S I 3住居，S D 5溝，S K 10土坑より古い。遺物は，住居掘方埋土より土師器が出土したが，小片で磨滅しているため調整や器形は不明である。

S I 3 竪穴住居

中央部を検出した。平面形は方形を呈すると考えられ，規模は東西5.1m，南北1.6m以上，方向はほぼ磁北。周溝やカマドは確認できなかった。床面で支柱穴を1個，土坑を8基確認した。重複関係は，S D 5溝より古く，S I 2住居，S K 12土坑より新しい。遺物は，堆積土より非ロクロ調整土師器甕，ロクロ調整土師器坏・甕，須恵器坏・甕が，K 1・5土坑より須恵器坏，K 7土坑・P 9柱支柱穴柱抜取穴より非ロクロ調整土師器甕，須恵器坏が出土した。住居の年代は，出土遺物の特徴から8世紀末から9世紀代と考えられる。

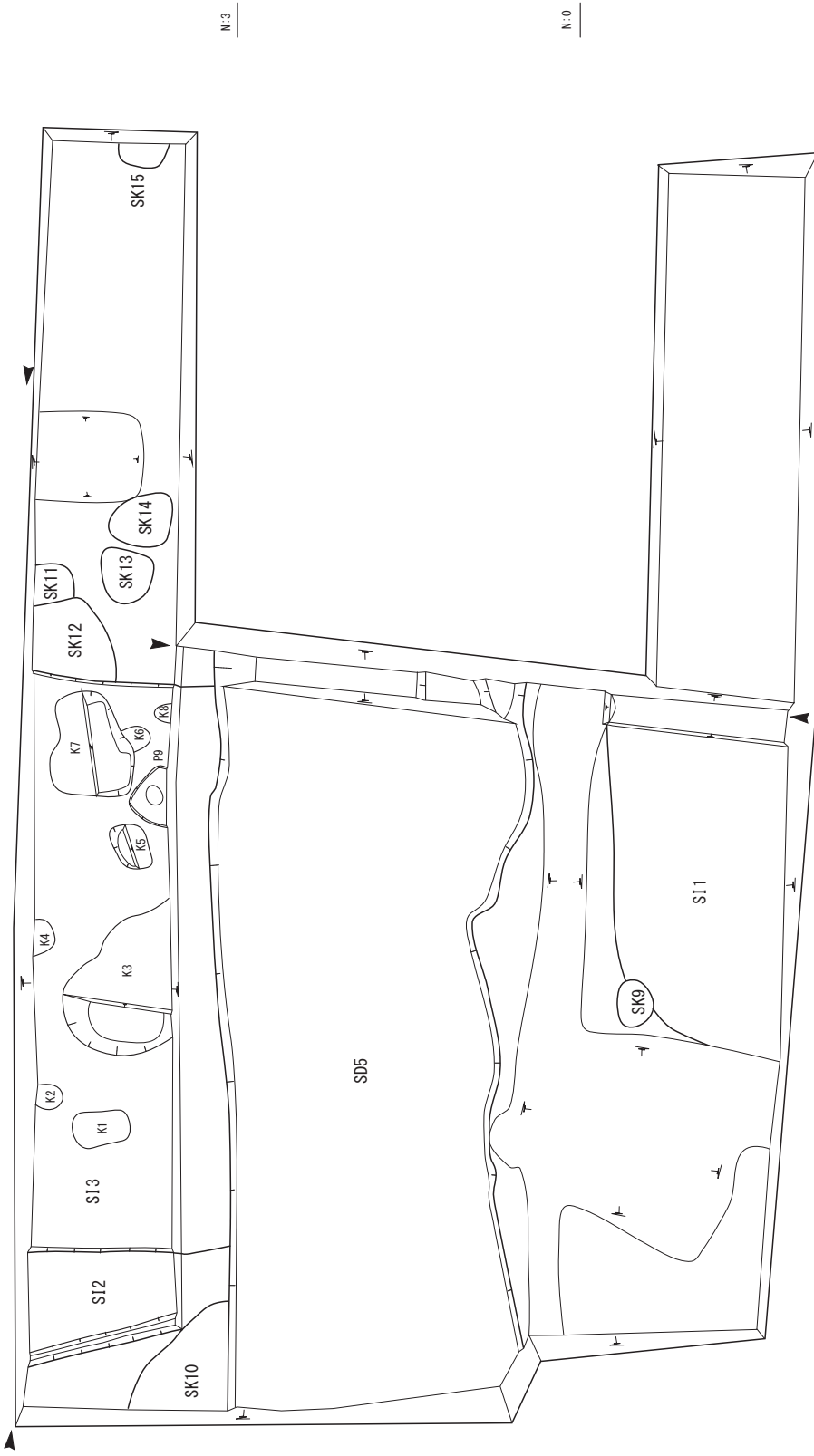


E:12

E:9

E:6

E:3



N:3

N:0



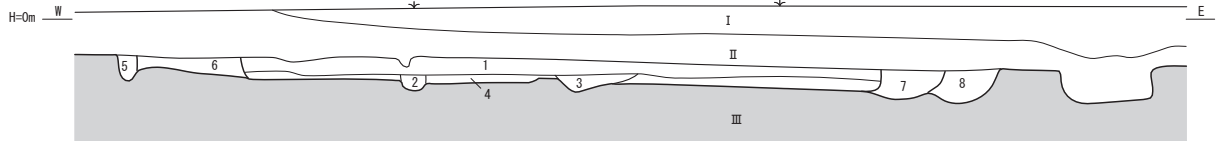
E:12

E:9

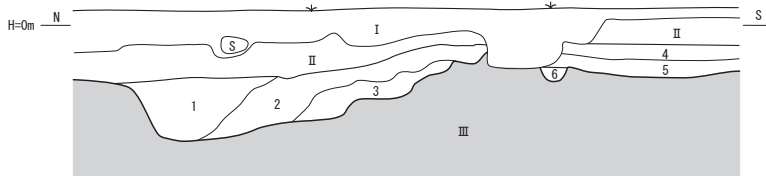
E:6

E:3

調査区平面図



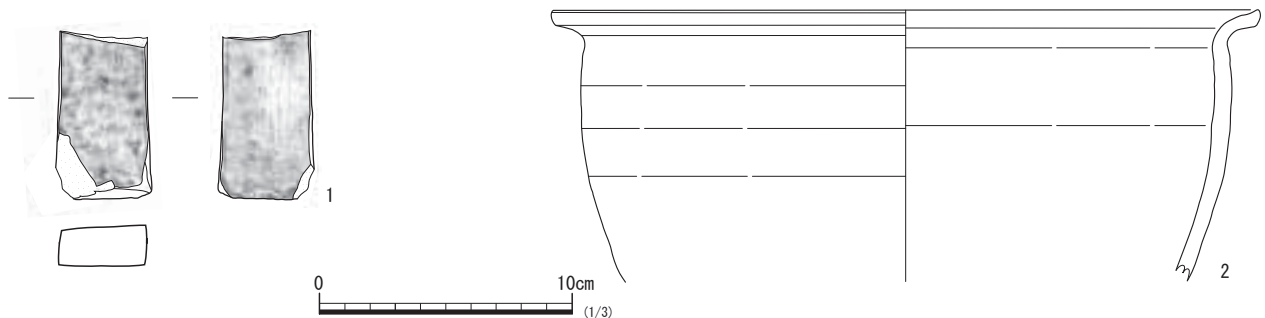
遺構名	層位	土色	土性	混入物等	備考
基本層	I	淡黄 (2.5Y8/3)	砂	ガレキ含む	納屋解体時盛土
	II	暗褐 (10YR3/3)	シルト	地山粒状を微量含む	旧表土
	III	明褐 (7.5YR5/6)	シルト		地山
SI3	1	暗褐 (10YR3/4)	粘土質シルト	地山大ブロックを多量、小ブロックを中量、炭化物・焼土を微量含む	人為堆積
	2	暗褐 (7.5YR3/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを中量含む	K2
	3	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物を少量、焼土を多量含む	K4
	4	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山大ブロック小ブロック・粒状ブロックを多量、中ブロックを少量、炭化物を微量含む	住居掘方埋土
SI2	5	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを中量含む	周溝
	6	にぶい黄褐 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山大ブロック・中ブロックを多量、小ブロック・粒状ブロックを少量、炭化物を微量含む	住居掘方埋土
SK12	7	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山中ブロックを微量、小ブロックを中量含む	人為堆積
SK11	8	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山中ブロックを少量、小ブロックを微量含む	人為堆積



遺構名	層位	土色	土性	混入物等	備考
SD5	1	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山粒状ブロック・炭化物を微量含む	人為堆積
	2	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山大ブロック・中ブロックを微量、炭化物を少量含む	人為堆積
	3	暗褐 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山中ブロック・炭化物を少量含む	人為堆積
SI1	4	にぶい黄褐 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量、炭化物を微量含む	自然堆積
	5	にぶい黄褐 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山大ブロック・小ブロックを中量、炭化物を微量含む	自然堆積
	6	にぶい黄褐 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山中ブロックを多量、炭化物を微量含む	周溝



SI1・2・3住居, SD5溝, SK11・12土坑断面図



番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	外面調整			内面調整			法量 (cm)			残存
						口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部	器高	口径	底径	
1	K-2	石製品	砥石	SD1	堆積土							残存長6.7	幅3.8	厚さ1.6	—
2	D-1	土師器	甕	SD3	堆積土	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	(28.0)	—	口縁～体部

出土遺物

SD5溝

調査区の中央部を東西に延びる溝である。確認した総長は6.5mで、上幅2.7m、下幅1.5m、深さ0.5m、断面形は段が付く台形状である。堆積土は3層を確認し、すべて人為堆積である。重複関係は、SI2・3住居、SK10土坑より新しい。遺物は、堆積土より非ロクロ調整土師器甕、ロクロ調整土師器甕、須恵器甕が出土した。



調査区全景（北西から）



調査区北側検出（東から）



S I 1 竪穴住居検出（東から）



S I 1 竪穴住居断面（西から）



S I 2・3 竪穴住居床面（西から）



S I 3 K 7 住居内土坑半裁（南から）



S D 5 溝全景（西から）



S D 5 溝断面（西から）

8. 新田柵跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市田尻大嶺字日足2-2

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：小野亜矢

期間：平成26年4月2日

調査面積：5.5㎡

住宅建築予定地内にトレンチを設定し、1.5m掘下げ地山面を検出した。遺物・遺構は認められなかった。



調査区全景 (東から)



基本層序 (南から)

9. 北長根南遺跡



遺跡位置図



調査区位置図

所在地：大崎市田尻大貫字北長根76

調査原因：個人住宅新築工事

調査員：小野亜矢，大久保弥生

期間：平成26年4月17日

調査面積：15.2㎡

住宅建築予定地内にトレンチを設定し、0.1m掘下げ地山面を検出した。敷地全体が以前の宅地造成のために削平を受けていた。遺物・遺構は認められなかった。



調査区全景（西から）

報告書抄録

ふりがな	しんさいふっこうまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	震災復興埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	宮城県大崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第25集							
編集者名	佐藤 優, 小野亜矢							
編集機関	大崎市教育委員会							
所在地	〒989-6492 宮城県大崎市岩出山字船場21番地 TEL0229-72-5036							
発行年月日	平成28年(西暦2016年)3月18日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
やねはちまんいせき 矢根八幡遺跡	みやぎけんおおさきしふるかわ 宮城県大崎市古川 もろやまあざやなぎまち 師山字柳町	04215	27026	38° 32' 47"	140° 58' 56"	平成24年4月12日	20㎡	個人住宅新築工事
みやざわじょうあと 宮沢城跡	みやぎけんおおさきしふるかわ 宮城県大崎市古川 みやざわあざたてうち 宮沢字館ノ内	04215	27098	38° 37' 37"	140° 56' 35"	平成24年6月15日	24㎡	個人住宅新築工事
ふるかわじょうあと 古川城跡	みやぎけんおおさきしふるかわ 宮城県大崎市古川 にノかまえ 二ノ構	04215	27110	38° 34' 35"	140° 57' 18"	平成24年8月3日	18㎡	個人住宅新築工事
あおつかじょうあと 青塚城跡	みやぎけんおおさきしふるかわ 宮城県大崎市古川 すわ2ちょうめ 諏訪二丁目	04215	27109	38° 34' 56"	140° 56' 56"	平成24年9月4日	40㎡	個人住宅新築工事
みやざわいせき 宮沢遺跡	みやぎけんおおさきしふるかわ 宮城県大崎市古川 かわくまあざちようせい 川熊字長清ほか	04215	27053	38° 37' 13"	140° 57' 43"	平成25年1月8日 平成25年8月27日 平成25年10月3～4日	25㎡ 12.3㎡ 52.1㎡	個人住宅新築工事
にひたさくあと 新田柵跡	みやぎけんおおさきしたじり 宮城県大崎市田尻 おおみねあざにつぞく 大嶺字日足	04215	38050	38° 37' 04"	141° 01' 06"	平成26年4月2日	5.5㎡	個人住宅新築工事
きたながねみなみいせき 北長根南遺跡	みやぎけんおおさきしたじり 宮城県大崎市田尻 おおみねあざにつぞく 大貫字北長根	04215	38059	38° 37' 01"	141° 04' 55"	平成26年4月17日	15.2㎡	個人住宅新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
矢根八幡遺跡	集落跡 屋敷跡	縄文 古墳 中世	なし		なし			
宮沢城跡	城館跡	中世 近世	なし		なし			
古川城跡	城館跡	中世 近世	なし		なし			
青塚城跡	城館跡	中世	なし		なし			
宮沢遺跡	官衙 集落跡	古代	竪穴住居跡, 溝跡, 土坑		土師器・須恵器・砥石			
新田柵跡	官衙 集落跡	古代	なし		なし			
北長根南遺跡	散布地	縄文 古代	なし		なし			
要約	平成24～27年度に実施した震災復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告。							

宮城県大崎市文化財調査報告書第25集

震災復興埋蔵文化財発掘調査報告書

印 刷 平成28年3月18日

発 行 平成28年3月18日

編集・発行 大崎市教育委員会

宮城県大崎市岩出山字船場21番地

印 刷 内藤印刷有限会社

宮城県大崎市古川塚目字石名坂191-1
